九州大学学術情報リポジトリ Kyushu University Institutional Repository

江國香織とアニー・ベイピーの作品における「家族 観」の対比研究

趙,科 三重大学大学院 : 修士課程修了

https://doi.org/10.15017/1456051

出版情報: Comparatio. 17, pp. 107-118, 2013-12-28. 九州大学大学院比較社会文化学府比較文化研究会

バージョン: 権利関係:

江國香織とアニー・ベイビーの作品における

家族観」の対比研究

趙

科

、はじめに

 二○世紀後半から二一世紀初頭にかけて、政治的な、社会的、 立の姿で表現され、これは、女性による自己解放の必然的な過程で な性作家に語る空間と自己解放の突破口を与えたため、中国でも、 せ作家に語る空間と自己解放の突破口を与えたため、中国でも、 は、高く評価されるべき反逆精神が を性でいる。これらの作品は、精神から肉体にいたるまでが反逆 まれている。これらの作品は、精神から肉体にいたるまでが反逆 まれている。これらの作品は、大性による自己解放の必然的な過程で の姿で表現され、これは、女性による自己解放の必然的な。社会的、 お市の発展と成熟が な性による自己解放の必然的な過程で お市の発展と成熟が ない。

次のように述べている。の批判だと思う。岡野幸江が「「近代家族」という概念」のなかで、この反逆精神において、一番注目されているのは、近代家族へ

実現を目指す人間解放とつながりあうと考えられていたからそれは近代的な自我意識に基づいた、自由な恋愛こそ近代が族の問題は、近代文学において中心的なテーマとなってきた。近代は「家族」の時代だといわれる。恋愛や結婚、家や家

の価値を計る一つのものさしとなってきたといっていい。(注めぐる人間の関係性が如何に描かれているかが常にその作品の大きな闘争対象となった。そしてこの恋愛や結婚、家族をであり、だからこそ自由な恋愛を抑圧する「家」は近代文学

出された。
出された。
出された。
日本の女性文学は、日露戦後に大きな転換期を迎え、それれる。日本の女性文学は、日露戦後に大きな転換期を迎え、それまでに作られた恋愛や家族のイメージが揺らぎ、それを映した「新までに作られた恋愛や家族のイメージが揺らぎ、それを映した「新までに作られた恋愛や家族のイメージが揺らぎ、それを映した「新までは本の女性文学では、恋愛結婚の結果として実現された家庭も、決して理想的な家庭とはいえないことが表現された。また、人間解放を目指した社会主義運動を担う男女の結婚においてさえ女性が犠牲にされ、夫婦の性役割を脱しきれないことが、いろい女性が犠牲にされ、夫婦の性役割を脱しきれないことが、いろい女性が犠牲にされ、夫婦の性役割を脱しきれないことが、いろい女性が犠牲にされ、夫婦の性役割を脱しきれないことが、いろいると考えら

「女の役割」をめぐる問題も提出され、男性と対等の立場で自立えるようになり、「性」についても、触れるようになったのである。み、文学世界を切り開いていった。「恋愛」というテーマが良く見時代、これまで封じられていたあらゆるものが堰を切って、女性時代、これまで封じられていたあらゆるものが堰を切って、女性より、女性文学は新しい時代を迎えた。「新時期」と呼ばれたこのより、女性文学は新しい時代を迎えた。「新時期」と呼ばれたこの上方中国では、七〇年代から、「経済改革、改革開放」の政策に

本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年を求める女性の主張がはっきりと描かれる作品も出てきた。

世界で、多くの読者を魅了している。

世界で、多くの読者を魅了している。

本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の現代女性作家、江國香織は一九六四年に東京本稿で扱う日本の表記を表記される。

中国の作家としては、アニー・ベイビー(安妮宝貝)を取り上た発表手法も話題になっている。 中国の作家としてば、アニー・ベイビー(安妮宝貝)を取り上た発表手法も話題になっている。

香織」とも称賛されている。ビアン』(注二)という邦題で日本に紹介された時、「中国の江岡

代表作家としての二人の作品における家族観の特徴と相違点を検本稿では、家族観に焦点を当て、日本と中国の現代女性文学の

二、江國香織――家族制度への疑問

討してみたい。

1、不倫の風景から家族の解体へ

いる。「不倫」は小説のテーマとしてよく取り上げられる。現代では、「不倫」は小説のテーマとしてよく取り上げられる。現代では、「不倫の風景は大きく変貌し、「家庭外恋愛」というがある。「家庭外恋愛」といる。「不倫」は小説のテーマとしてよく取り上げられる。現代では、いる。

ちていってしまう。
ちていってしまう。
ちていってしまう。
は親と二人暮しの大学生透は、あるきっかけで、母親(陽ある。母親と二人暮しの大学生透は、あるきっかけで、母親(陽な國香織の代表作と言える『東京タワー』(注三) は不倫の話で

き合っていることを知って、耕二は自ら積極的に年上の女性に声顔がある。年上の女性と付き合っているのである。透が詩史と付は付き合っている由利という女の子がいる。彼には、もう一つの医者の父親を持つ、比較的裕福な家庭に育った大学生の耕二に

ぐって、物語が展開していく。てはばからない喜美子だ。透と詩史、耕二と喜美子の恋の話をめ合っているのは、あらゆるスクールに通い、自分は良妻だといっをかけるようになった。同級生の母親と寝たこともある。今付き

時間がとれなくて」「食事もほとんど別々なの」というふうに書かき、浅野は「広告の仕事を」していて、二人は「なかなか一緒のさんは「何でも持っている。お金、自分の店、そして夫」。詩史の家族の影が見えてくる。まずは、透と詩史を見てみよう。詩史透と詩史、耕二と喜美子との関係を詳しく分析すると、二種類

透の家族については、父と母は透が小学校に入学した年に離婚る。

持っていることである。 仕事を持っていることと女性のほうがかなり独立心の強い性格を透の家族と詩史の家族には、共通点が二つある。夫婦両方とも

る兄が結納をする(中略)母親は尋常ならざる勢いで料理しまくの、母親の趣味のフランス詩集のクッションだの」「六月に結婚す耕二の家族については、「父親のゴルフクラブだのトロフィーだ

う家族である。 う家族である。 り、耕二が今まで見たことのない、何もかも揃いの食器がテーブ り、耕二が今まで見たことのない、何もかも揃いの食器がテーブ り、耕二が今まで見たことのない、何もかも揃いの食器がテーブ り、耕二が今まで見たことのない、何もかも揃いの食器がテーブ

的変容は大きい」と小倉孝誠は指摘している。 どうして不倫という現象が起こるのか、について、「女性の精神

本世の空間ではなく、抑圧的な空間として、崩れていく。 「家族解体」の不安を裏付けることになるだろう。「結婚してよか ことだわ」と結婚生活を軽い口調で語っている詩史と、「私がいない と困るっていうふうに。簡単なことだった。すぐ腑抜けになった。 と困るっていうふうに。簡単なことだった。すぐ腑抜けになった。 と困るっていうふうに。簡単なことだった。すぐ腑抜けになった。 と困るっていうふうに。簡単なことだった。すぐ腑抜けになった。 と困るっていうふうに。簡単なことになるだろう。「結婚してよか できないって、思わせとくほうがいいのよ。私がいない と困るっていうことが、小説のテーマとして取り上げられることは

い、「新型家族」の試み

新型家族の描写を試みた。かる』(注十) という作品を通じて、「非常識的な」家族像を描き、いる』(注十) という作品を通じて、「非常識的な」家族像を描き、はどういう「家族」を求めているのか。江國香織は『きらきらひ『東京タワー』は抑圧的な空間から逃げる主婦像を描くが、で

婚生活から浮かび上がる誠実、友情、恋愛が描かれている。 がある夫婦になった。そうして始まったセックスレスの奇妙な結実を、「妻」である笑子の「私」と「夫」である睦月の「僕」がそれぞれの視点から交互に語ってゆく。情緒不安定で、精神科の治寒を要するアルコール依存症の笑子、医者としての外聞は良いが、寒を要するアルコール依存症の笑子、医者としての外聞は良いが、病がある夫婦になった。そうして始まったセックスレスの奇妙な結だ。見合いの後、互いの「私」と「夫」である睦月の「僕」がそれぞれの視点から交互に語ってゆく。情緒不安定で、精神科の治まる夫婦になった。そうして始まったセックスレスの奇妙な結びある夫婦になった。 「結婚」ではあるが、互いに充足しているかに見える共生の内た「結婚」ではあるが、互いに充足しているかに見える共生の内に、対しているがは、

している。
している。
している。
に全くこだわらない二人は、ジェンダー・フリーな夫婦像を実践ある。家事、育児は妻の当然の仕事とする保守的な性別役割分業の笑子が唯一与えられた労働は、ベッドシーツのアイロンがけでの。
を見は、掃除も料理もすべての家事を担っている。
妻としている。
を引は、病院に勤務していまず、二人の夫婦関係を見てみよう。笑子は、アルバイト程度

は「一度も性交渉をもったことがない」。性交渉を行う場所は恋人には、愛情が確かに存在している。 睦月は「ふりむい、という時の笑子の顔が、僕は心の底から好きだ」(注十一)と、笑子の笑顔に癒しを見出しており、精神的に不安になった時と、笑子の笑顔に癒しを見出しており、精神的に不安になった時と、笑子の笑顔に癒しを見出しており、精神的に不安になった時と、笑子の笑顔に癒しを見出しており、精神的に不安になった時と、笑子の笑顔に癒しを見出しており、精神的に不安になった時と、笑子の笑顔に癒しを見出しており、精神的に不安になった時と、笑子の笑顔に癒しを見ばいる。この方が、むしろ前提としない夫婦の親密な関係がない。性交渉を行う場所は恋人はない。と作品は問いか永続的で安定的な関係性が築けるのではないか、と作品は問いか永続的で安定的な関係性が築けるのではないか、と作品は問いか永続的で安定的な関係性が築けるのではないか、と作品は問いか永続的で安定的な関係性が築けるのではないか、と作品は問いかれているようだ。

は次のようなものである。 「家族」について、アメリカの文化人類学者マードックの定義

と、一人またはそれ以上の子供を含んでいる。そして大人のて特徴づけられる社会集団である。それは両性からなる大人家族は、居住の空間、経済的な協働、それから生殖によっ

もしくは養子である。(注十二)ており、また子供は、この性的共住を行っている大人の実子、うち少なくとも二人は、社会的に承認された性関係を維持し

う。 は、笑子と睦月は子供についてはどう考えているのかを見てみよは、笑子と睦月は子供についてはどう考えていることがわかる。で家族では、子供は重要な役割を果たしていることがわかる。で

きの行事をやる場面では、このように書いている。在である。笑子の友達瑞穂夫婦が子供を連れて、笑子の家で豆ましかし、睦月にしても、笑子にしても、子供自体は望まない存

じみ言った。(注十三)
じみ言った。(注十三)
がら、笑子は、子供なんてめんどくさい生き物ねえ、としみが悪いのだ。(中略) 紺のくれた鉢植えに覚めた紅茶を継ぎな族」から発せられるパワーなのだと思うと、どうにも居心地族」から発せられるパワーなのだと思うと、どうにも居心地ない、僕と笑子はそわそわしてしまう。それが、この小さな「家

に、子供を産まないことも含まれているだろう。 は、笑子は「子供うむためじゃないわ」と「かろうじて反論した」。 に、笑子は「子供うむためじゃないわ」と「かろうじて反論した」。 に、笑子は「子供うむためじゃないわ」と「かろうじて反論した」。 を達の瑞穂に「何のためじゃないわ」と「かろうじて反論した」。

と言い放った。こうした状況で、睦月の母が言っている「人工授 係をつなぎ止めるために紺は不可欠の存在である。睦月の秘密が 子をあらかじめ試験管で混ぜ合わせ受精し、「みんなの子供」を牛 もあった自分たちの娘婿が、「おとこおんな」で恋人までいる事実 笑子の両親に発覚し、両家の親族会議が開かれる。 な紺の純粋の心性に笑子は好感を抱く。笑子には、二人の夫婦関 とになるはずだが、いたずら好きで、傍若無人、無造作で一本気 笑子が睦月の恋人である紺の存在を認める。紺を睦月と笑子との むという非科学的な解決策を考え出してしまった。 精」というモチーフを、笑子が逆手に取り、睦月の精子と紺の精 に驚愕した笑子の両親は睦月に即刻紺と別れることを要求すると、 対関係の中に呼び入れることは、もともと、社会規範に反するこ してはならない。二人の間に、紺が介在している。結婚するとき、 「睦月がもし紺くんと別れたら、そしたら私も睦月と別れるわ」 睦月と笑子との夫婦関係を考えるとき、もう一人の存在を無視 信頼し自慢で

であろうか。そのことをこの作品では問っている。 世間で育てる発想は、血縁に縛られない家族の在り方として可能 供」を生むという、父親をあえて特定しない子供を、共感し合う 的・本質的な家族のありようとして我々が認識しているが、「常識 的・本質的な家族のありようとして我々が認識しているが、「常識 というが、「常識

3、まとめ

「家族」の基盤と根拠そのものを問い返す。た作品は多かったが、江國の作品には愛を一つの切り口として、て、そこから逸脱し揺さぶりをかけるさまざまな試みを行ってきを中心としている家族制度―――父権と夫権への抵抗をテーマとし近代女性文学には、結婚、子育てなどの家族制度に挑み、男性

『東京タワー』の「家族」のきずなが薄くなり、「家庭外」で愛いく。

三、アニー・ベイビー――「家族」探し

1、〈愛〉の追究

て書いたものはほとんどである。公を女性に設定して、女性の視点に立って、女性の感受に基づいの話が一貫として描かれている。アニー・ベイビーの作品は主人「都市癒し小説」と呼ばれるアニー・ベイビーの作品では、愛

「私の小説には二人しかいない。一人は名前が「安」という女でいる。

涯を閉じるという蓮安のことを語られている。 かの男性と付き合い、愛が得られず、最期はトイレで自殺し、生合い、良生の物語と交叉させながら、愛を探しに家を出て、何人を決めた良生は北京から出発した。道中で蓮安という女性と知りを決めた良生は北京から出発した。道中で蓮安という女性と知りな性の叙事詩として『二三事』(注十五)を読み解くと、この作

自分の感情を伝えて、理解してもらうことは、私もできるのだ」ドライブをしたり、映画を見に行ったりして、彼女に「他の人にてくれたり、誕生日パーティーを開いてくれたり、蓮安を連れて自殺した後、ずっと面倒を見てくれていた人である。勉強を教え性だ。蓮安の母親の友達で、蓮安より一七歳上で、母親が監獄で一辰(男)は蓮安(女)が一五歳のときからあこがれていた男

と初めて感じさせた。

□○歳の時、二人は体の関係をもった。事の後、蓮安は一辰から金を受け取った。金をけ取った。金を別布に入れると、「彼が軽く息を出した」声が聞こえた。それらめるほど蓮安を愛してはない。蓮安も自分の家庭を持っているらめるほど蓮安を愛してはない。蓮安も自分の家庭を持っているらめるほど蓮安を愛してはない。蓮安も自分の家庭を持っているに、またば連安を愛してはない。東の後、蓮安は一辰かは「釈然としたか、または嘆いたか、彼女にとってどうでもいい。

二人はつきあう。 二人はつきあう。 こ人はつきあう。 こ人はつきあう。 こ人はつきあう。 こ人はつきあう。 こ人はつきあう。 こ人はつきあう。 こ人はつきあう。 についたが、彼は蓮安のことを知らないかのよれ、テレビにもよくていたが、彼は蓮安のことを知らないかのよれ、テレビにもよくていたが、彼は蓮安のことを知らないかのよれ、テレビにもよくでは」として有名になり、マスコミでもよく報道され、テレビにもあった人は卓原という寿司屋で仕事している男だった。

分の時間はセックスをしている」。最後に、卓原は蓮安の金を持って、蓮安はとても失望した。それからは、二人でいる時は、「大部は地下鉄の下で小さな服屋さんをやっているよ」と蓮安は冗談の口調で彼に言い、彼は「あなたは尹蓮安。あなたのCD、私の同僚も持っているよ」と冷静に言い返した。だまされたという感じなもち、一緒に生活し始めた。「私の仕事は何だと思うの?実は私をもち、一緒に生活し始めた。「私の仕事は何だと思うの?実は私がめてのデートで、映画館から彼の家に戻り、二人は体の関係

て逃げる。

現実的に生きている」(注十七)。この言葉はアニー・ベイビーのでは女性に対し、男性像は「現実的」に描かれている。これらの男性は、いつもきれいなシャツを着て、とても穏やかこれらの男性は、いつもきれいなシャツを着て、とても穏やかこれらの男性は、いつもきれいなシャツを着て、とても穏やかに見え、安定的な仕事を持ち、現実的」に描かれている。「邂逅巨蟹座女子」(注十六)の林(男)は自分について、このよだけである。男は愛さない、ただ「女性が必要」であり、女性はだけである。男は愛さない、ただ「女性が必要」であり、女性はだけである。の道具では事を見なければならないのだ(中略)私は頭のいい男だ。理性的、文性はないのでは、大いの言葉はアニー・ベイビーの、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。という言葉は、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。では、大口である。

対して、不信の気持ちも抱いている。 愛をテーマにして、愛を追及している彼女たちは、実は男性に

アニー・ベイビーはインタビューで、このように述べている。

作品のすべての男性にあてはまるといえるだろう。

全を追及してからなのです。 私は生命にある不安のかげを探して、それを分析しようと がすべてのことを信じることができませんでした。(中略) あ は気づきました。その妥協しない生き方、漂泊の生 とで、私は気づきました。その妥協しない生き方、漂泊の生 とで、私は気づきました。その妥協しない生き方、漂泊の生

それから、この不安は、子供時代、成長過程、それに習慣

などと関係があるはずだと思います。(注十八)

時代に戻り、その成長過程を見ることが大事である。 主人公の女性たちの性格を把握するためには、彼女たちの子供

2、「家族の不在」から「家族回帰」

ているのか、を見てみたい。「家族の不在」はアニー・ベイビーの作品にどのように表現されアニー・ベイビーの作品もその影響を受けていると指摘している。藤井省三は「村上作品における家族の不在」について論じて、

アニー・ベイビーが描く母親のイメージは、いつも「ヒステリったか、二人が離婚している。目に入ったこと、記憶に残ってい温かさ、楽しさを感じたことがないことだ。両親の一人が亡くな温かさ、楽しさを感じたことがないことだ。両親の一人が亡くなるのは、家族の喧嘩、暴力、さらに死亡である。

ックに号泣して、手で、ほうきで、ハンガーで安を殴る。 いったい、 「大田」の母は、離婚して以来、性格が荒っぽくなった。いつもヒステリリックになる。『八月未央』(注二十一)で、未央の母は急に叫びとの約束を守るために、彼女を育てたが、彼女には「情を入れなとの約束を守るために、彼女を育てたが、彼女には「情を入れなとの約束を守るために、彼女を育てたが、彼女には「情を入れない」。 蘭姨はひどい憂鬱病を持っている。 発作が起きると、ヒステレックになる。 『八月未央』(注二十一)で、未央の母は急に叫びい」。 「職婚して以来、性格が荒っぽくなった。 七歳の時、二十)の南生が生まれた時、母は難産で亡くなった。 七歳の時、二十)の南生が生まれた時、母は難産で亡くなった。 七歳の時、二十)が。それに、喧嘩、暴力とは常に関連している。 『彼岸花』(注

るとともに、同時に解放をも意味するものであった。は難産で死ぬ。彼女たちにとって、「死」は苦痛の最大の表徴であとがほとんどである。『八月未央』の喬は腕を切って自殺した。『二いての描写である。彼女たちの運命の結末は、「死亡」で終わるこの殺れらの影響が、強く作品に反映しているのは、「死亡」につ

「私」を連れて学校に行く時の場面は次のように描いている。メージも比較的静かで、穏やかである。たとえば、『二三事』では、母親の激しい描写とは違い、父親についての描写は少ない、イ

に連れて行った。太陽は明るくて、彼女は緑の刺繍のスカーのようだ。七歳の時、彼は彼女の手を握って、転校の小学校く見える。まるで静かにそばに立って私をなでようとするか雨の日には、夕暮れはとてもほの暗い。彼の顔はとても近

の筋が感じられた。(注二十三) トをはいていた。彼について学校に入った。ごつごつした手

『再見旧時光』にも

使っていた。彼女はこの服が好きだ。(注二十四) をセーターは八年間も着ていた。ボロボロになるまでずっとたり、彼女を抱いてくれたりしたことはない。二人きりでいるときは少ない。彼女ははっきり覚えている。そのとき買っるときは少ない。アイスクリームの店に連れて行ってくれ 画を見に行ったり、アイスクリームの店に連れて行ってくれ とない のが と は は 彼女を連れて映 な は は 彼女を連れて映 な は は は な が ま す ざ に 見 え

というふうに、父親について描写される。

る。

されているかのように、恥ずかしいことだ。しても、失望にしても。このようなことを表に出すのは禁止私たちはこれまでお互いに感情を表したことがない。愛に

(中略)

えばいいのか、わからなくなった。(注二十五) での閉鎖的な性格のために、私はどうやって他の男と付き合とになれているけれど、自分でもわからない気持だ。彼の愛、とになれているけれど、誰かがそばにいてくれないこともととになれているけれど、誰かがそばにいてくれないこともとら、この生活を引き受けるしかないのだ。私は一人でいるこら、この生活を引き受けるしかないのだ。私は一人でいるこら、一人で自分の感情と心を食べ、一人で寝て、一人で勉

は家族愛に満ちた場所、つまり、「家」という場所があって得られ語っている。「人生に欠ける愛」は家族愛で、「安全感」というの全感を追及してからなのだ。」(注二十六)と『二三事』の蓮安がの生活状態を続けているのは、実は今までの人生に欠ける愛と安の生活状態を続けているのは、実は今までの人生に欠ける愛と安の追求」の部分に戻り、この「愛」はどういうものかを考極端な母親、無口な父親、彼女たちはこうした家族に生まれる。

青い石板の上から蘚苔が見える。湿気、縦横に交錯する河道、薄クチナシの花期多分また到来していないので、まだ咲いていないの扉と窓、中庭の中で植えているコウシンバラとスイカズラがひの扉と窓、中庭の中で植えているコウシンバラとスイカズラがひの扉と窓、中庭の中で植えているコウシンバラとスイカズラがひい扉と窓、中庭の中で植えているコウシンバラとスイカズラがひい扉と窓、中庭の中で植えているのだ。なの夢で、「今でも私は依然として故郷の夢をみているのだ。この夢で、「

出ている白黒写真の原板のように」(注二十七)。シーンの一コマーコマの画面に止まっている、次第に浮つき突きくかすかに光っている微光、風の中に海水のにおいがする(中略)

なだと言えるだろう。ところは、家族の間の強い情緒のつながり、つまり、家族のきず「家族」の原点に戻る。この「家族」に、彼女たちが一番求める「家族の不在」から出発して、〈愛〉への追求を経験して、また

四、結び

、「愛」の探究

『きらきらひかる』の「あとがき」で、江國香織が「ごく基本的な恋愛小説を書こうと思いました。(中略)素直に言えば、恋をしたり信じあったりするのは無謀なことだと思います。どう考えたって蛮勇です。」(注二十八)と述べている。「無謀」で、「蛮勇」が愛というのが何であろうか。まず、「恋愛」の定義から見よう。日本国語大辞典によれば、「恋愛」の定義は、「特定の異性に特別の愛情を感じて恋い慕うこと。また、その状態。こい。愛恋。」の愛情を感じて恋い慕うこと。また、その状態。こい。愛恋。」ので表がでいるが、江國香織が描く「愛」は「普通」ではない。同性でも、異性でも、二人の間にお互いへの恋慕の気持ちがあると性でも、異性でも、二人の間にお互いへの恋慕の気持ちがあるとしたら、愛が成立するだろう。

欠けている家族愛いわゆる家族間の絆を求めていると言える。であるということがわかった。家族愛欠如の子供時代の影響で、古人公が追求している「愛」は「実は今までの人生にかける愛と安全感」という「家族愛」のことだと思われる。アニー・ベイビ安全感」ということがわかった。家族愛欠如の子供時代の影響で、か。作品を分析すると、女性の主人公の共通点は不幸な子供時代か。作品を分析すると、女性の主人公の共通点は不幸な子供時代か。作品を分析すると、女性の主人公の共通点は不幸な子供時代か。作品を分析すると、女性の主人公の共通点は不幸な子供時代か。

2、「新型家族」の傾向と「家族の回帰」

(家族観」では、「家族解体」と「新型家族の試み」について、 「家族観」では、「家族解体」と「新型家族の試み」について、 原」の在り方を作品を描いたのである。

られる。
り、「温かい家族愛に満ちる家族への回帰」を実現していると考えり、「温かい家族愛に満ちる家族への回帰」を実現していると考えから、また「家族」の原点に戻り、家族の間の強い情緒のつなが「家族愛欠如」という女性たちの特定の経験から、「家族の不在」アニー・ベイビーのほうは、「家族」制度を考えるのではなくて、

アニー・ベイビーが描く、求めている「愛」は何だろう

注

、渡辺澄子『女性文学を学ぶ人のために』 世界思想社 <u>_</u>

〇〇年十月 二十頁

二、アニー・ベイビー著 学館 二〇〇七年七月 泉京鹿訳 『さよなら、ビビアン』小

三、江國香織 『東京タワー』 新潮社 二〇〇六年三月

四 同右 二十五頁

乓 同右 二十頁

同右 二十六頁

七、 同右 一〇七頁

の研究』

八、小倉孝誠 「タブーと浸犯 不倫の恋の物語」(柴田陽弘 『恋

慶応義塾大学出版会 二〇〇五年八月)一九六頁

九、江國香織 『東京タワー』 新潮社 二〇〇六年三月 七十

十、江國香織『きらきらひかる』新潮社 平成六年六月

十一、同右 三十頁

十二、G.P.マードック著 ・内藤莞爾監訳『社会構造:核家族

の社会人類学』 新泉社 一九七八年八月 二十三頁

十三、江國香織『きらきらひかる』新潮社 平成六年六月 三七

頁と三八百

十四 安妮宝貝 『 八月未央 』 广州南海出版社 二〇〇一年 序

十五、 安妮宝貝 『二三事』 南海出版公司 二〇〇四年一月

十六、『八月未央』(注十四)に収録されている短編小説。

十七、 同右 二十三頁

十八、『城市画報』第一六一期 九年に南方報業傳媒集団が主催して創刊した雑誌である。現代 安妮宝貝長篇專報十一号 (一九九

都市に生きる若者の生活状態と生き方を主な内容としている。) 3 第四十

十九、『ユリイカ詩と批評 特集*新しい世界文学』

巻第三号 二〇〇八年三月 一八八頁

一十、安妮宝貝『彼岸花』 南海出版公司 二〇〇一年九月

二十一、同注十四

一十二、『告別微安』に収録されている。『告別微安』中国社会出

版社 二〇〇一年

一十三、安妮宝貝 『二三事』 南海出版公司 那么近,就好像是真实站在身旁,静静的想要抚摸我一样。七岁 五十三頁(原文 下雨的日子里,夕阳漫漫的暗下来。 二〇〇四年一月 他的脸是

的刺绣短裙,尾随着他进入学校。 那年,他握着她的手送她去转学校。 她能感受到他手心的粗糙。 那天太阳很好,她穿着绿色

一十四、『薔薇島嶼』(作家出版社 二○○二年八月 十三頁)に収

激凌店, 録されている。(原文 而疼痛。 他看她试穿衣服。 从没有拥抱过她。 父親坐在旁边的凳子上, 他的腿因为走路 他从没有带她看电影,从不带她去冰 那是他们很少的几次单独相处。

毛被蛀了大大小小的洞。)

得这样清楚。那件羊毛衬衫她穿了近八年。这样喜欢。直到纯羊

十五、 四十頁(原文 安妮宝貝 我们从来不彼此表达感情。不管是爱, 还是失望。 『二三事』 南海出版公司 二〇〇四年一月

《记》 含:《一记记》,"证》,《过号》,"是"———〕""行"(似乎这表达是被绝对禁忌的,带有羞耻之心的。(略)

一十六、同右 四十一頁(原文 后来我想起来,我是在用不妥协对我的爱与封闭,使我没有学会与其他男子妥当相处的方式。)构这男子,是父亲。所以就必须接受这种生活。我后来习惯独自之后:始独自吃饭,睡觉,做功课,整理自己的情绪和内心。因之后:始独自吃饭,睡觉,做功课,整理自己的情绪和内心。因

一十八、江國香織『きらきらひかる』新潮社 一九九四年六月 二年、(略) 镜头一格一格的凝固,想在药液中逐戒浮凸的黑白底片。) 中七、同右 九十四頁(原文 至今我依旧常常在梦里,见着自己的故乡。它的雨水倒影和樟树的浓郁芳香。陈旧的建筑,青砖立的故乡。它的雨水倒影和樟树的浓郁芳香。陈旧的建筑,青砖石的故乡。它的雨水倒影和樟树的浓郁芳香。陈旧的建筑,青砖石的故乡。它的雨水倒影和樟树的浓郁芳香。陈旧的建筑,青砖石的故乡。它的雨水倒影和樟树的浓郁芳香。陈旧的建筑,青砖石的故乡。

一十九、『日本国語大辞典』第二版

小学館